

1 日異校種体験研修スタート（下条中学校区）写真の説明は7ページ



巻頭言 『人間は何のために生きる？』

学校教育課長 藤田 剛

私は「男はつらいよ」シリーズが大好きです。風来坊の寅さんをいつも温かく迎え入れる古き良き時代の下町の風情、あの昭和レトロな感じが良いのです。

私が最も好きなのは、第39作「寅次郎物語」のラスト近くのシーンでの甥の満男との会話のシーンでの台詞です。

思春期でいろいろ悩みも多かった満男は旅立っていく伯父さんに柴又の駅で問いかけます。「人間は、何のために生きてんのかな？」

寅次郎は「なんだ、難しいこと聞くなあ…」と言いながらも、

「あ～、生まれてきて良かったな、って思うことが何べんかあるじゃない？ね？そのために人間、生きてんじゃねえのか？」と返します。そして、

「そのうち、お前にもそういうときが来るよ。ん？まあ…がんばれ。」

と言って満男の肩をぽんと叩き、改札に向かっていくのです。この後ろ姿が実に格好良い。

数ある寅さん映画の中の、数ある名言の中でも最高のものではないかと個人的には思っています。

「自分は何のために生まれてきたんだろう」「何のために生きているんだろう」…かなり哲学的ですが、特に思春期の頃には、多くの人考えることなのかも知れません。それに対して、ありきたりな「幸せになるために」ではなくて、「生まれてきて良かったなと思うための」に生まれてきた、と言っているのが、実に秀逸です。

みなさんは、「あ～、生まれてきて良かったな」と思ったことが今まで何回あるでしょうか。特に意識はしないでしょうから、数えるほどです、という方がほとんどでしょうか。

この十日町には豊かな自然があって、温かい人たちが暮らす、それこそ古き良き時代の佇まいがかりょうじて生きています。そんな素晴らしい環境の中で、寅さんの言った「生まれてきて良かったな」と思うようなことを、十日町の子どもたちにもたくさん経験させてほしいと思っています。

小中一貫教育

■ 「居心地のよい学級づくり」アドバイザー学校訪問に学ぶ

十日町市教育センター事業の一つに「居心地のよい学級づくり支援事業」があります。事業の中に「居心地のよい学級づくりアドバイザー学校訪問」があり、早稲田大学の伊佐貢一客員教授から直接指導を受けることができます。要請のある学校に対し、年に10校程度の訪問が可能です。今年度は、すでに7月1日（月）に十日町小学校、16日（火）に南中学校で行われました。

十日町小学校では、6月に実施したWEBQUの結果を基に校内での事例検討会を行いました。WEBQUから見てきた学級の状況を基に対策シート、学級づくりシートを職員で作成しました。その事例をもとに「活性度を高める学級づくりと授業づくり」をテーマとする校内研修を行いました。

初めに、プロット図やヘルプサインチェック表を基に学級づくりの課題として見るべきポイントを指導していただきました。特に学習意欲に関する項目No.5、承認感に関する項目No.10、いじめ不登校に関する項目No.16を軸として課題を焦点化する重要性を指導してもらいました。

次に校内で行われた事例検討会で作った対策シート、学級づくりシートについて担任からの説明を受けて、その適切さや今後の学級づくりの進め方について助言をしてもらいました。

そして、「活性度を高める学級づくり・授業づくり」を授業改善と校内研修の視点から指導してもらいました。一見同じように見える親和型の学級でも活性度の高さに違いがあり、「き（聞・聴・訊）き合う」関係性を①安心して話ができる→②会話を楽しむ→③対話（異質な他者との交流）へと高めるステップが大切であることを話されました。

「き（聞・聴・訊）き合う」関係性を育てることについて印象に残ったことは、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 他者の声を聴くことは学びの出発点であること② 一人一人が主人公（自分も相手も主人公）であるという学習集団であること③ 教室を「競争の文化」から「共同の文化」に立脚した場にする（友達の発言に耳を傾けずに「はい！はい！」自分の主張ばかりする子どもが主人公の教室や、誤答に対して「ちがいます！」が声高に叫ばれる教室を変えていかなければなりません）④ 教師は、子どもの声を聴き、それをつないで思考を促すスキルを身に付けること⑤ 「き（聞・聴・訊）き合う」関係は「探究と共同の学び」の必要条件であること |
|--|

です。

最後に、学校改革の最大の成功要因は、職員の同僚性の成否にあることを強調されました。教師が学び合いの専門家として成長するためには、同僚性の高い職員研修が必要です。同僚性が育つ校内研修として、次の4点をあげられました。

- ① 教え方を議論せず、事実を基に学びの成立とつまずきを議論すること

- ② 質問やアドバイスをしないこと
- ③ すべての教員が自分が学んだことを一つは発言すること
- ④ 司会者は話題を絞ったり議論を方向付けたりせず、まとめもしないこと

私が学校現場にいたころの職員研修を思い返すと、研究主任が年度の研究テーマを示して、公開授業の実施月日を決め、全員公開をする授業では、やたらと質問や「わたしならこうする」論が飛び交ったことが印象に残っています。授業改善と授業研究改善はセットで進める必要があると感じました。

南中学校では、まず、1学期の学級目標を振り返る学級活動を授業公開しました。学級目標それ自体はやや抽象的な言葉ですが、それを具現すべく中学生は複数の行動目標を設定します。今回は、1学期を振り返って学級目標にどれだけ近づけたのかをロイロノートでアンケートをとり、その数値を基に改善策などを話し合う授業でした。中学生なりに1学期にできたこと、課題となることを振り返りシートに記入して、グループで話し合っ



今回の研修テーマは「協働学習の土台となる学級の耕し」です。伊佐先生は、WEBQUの数値だけでなく、生の生徒の姿や教員働きかけを公開した南中学校の前向きな研修意欲を評価し、具体的な指導をされました。

協働学習を実践するには、WEBQUから見た活性度を高める必要がありますが、その前提として学級の安定度を確かなものにしなければなりません。これは、十日町小学校で指導されたこととも重なります。

学級づくりを1年間のスパンで考えたとき、P:ルールとリレーションの視点から○○のような課題がったので、解決のための見通し(計画)をもって、D:実際に取り組んでみたところ、C:このような結果と新たな課題がみえた(アセスメント)ので、A:次の一手をこのようにすることを学校の事例検討会で語り合うことが大切です。

プロット図やヘルプサインを基に南中学校に共通する課題を挙げて、次のような提案をされました。

・関わるソーシャルスキルを学習すること

・相談しやすいシステムや方法を工夫すること

・キャリア教育のカリキュラムを見直して南中学校の特色を出すこと

・係活動で自己有用感高めること

・フラットな人間関係ですべての生徒がリーダーを経験すること

・すべての生徒の意見を取り上げること

・学校改革の最大の成功要因は同僚性の成否にあること

南中学校の校内を見て回って、いいなと思った掲示物は、5月に体育祭を実施しての生徒の振り返りです。部活動にも力を注がなければならない5月に大きな学校行事の一つである体育祭を移して3年目だそうです。3年生のリーダーシップはもちろん、団結して体育祭をなしとげた生徒の自己有用感の高さを感じました。南中学校の学校改善の

努力は、過去3年間のWEBQUの結果にも表れています。学級の型が安定に近づき、インクルーシブライン外の生徒の割合も減ってきています。今後の研修のさらなる充実を期待したいと思います。

伊佐先生は、8月には川治小学校で指導されます。2学期以降に「居心地のよい学級づくり」の職員研修を実施したい学校は、教育センターの八重沢指導主事に相談してください。

教育相談班より 「特別支援教育の充実」に向けて

□ 特別支援学級に在籍する児童生徒の「特別支援学級の授業時数」は守られていますか？

特別支援学級

障がいのある児童生徒が、年間を通じてその学級において活動することを前提として編制され、障がいに応じた指導が行われるもの。

交流及び共同学習

障がいのある児童生徒の交流先の学級での活動を特別支援学級担任がサポートするなど、適切な指導体制を整えられる範囲で実施される必要がある。

これらを総合的に勘案し、**原則として、特別支援学級においては、週の授業時数の半分以上の授業を行うことが目安**とされています。

□ 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用していますか？

個別の教育支援計画

障がいのある児童生徒等一人一人の教育的ニーズを踏まえ、長期的な視点で幼児期から学校卒業時までを通じて、一貫した支援を行うことを目的として作成。

個別の指導計画

個々の児童生徒の実態に応じた適切な指導を行うため、多様な学びの場で編成されている教育課程を具体化し、指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、適切かつきめ細かに指導することを目的として作成。

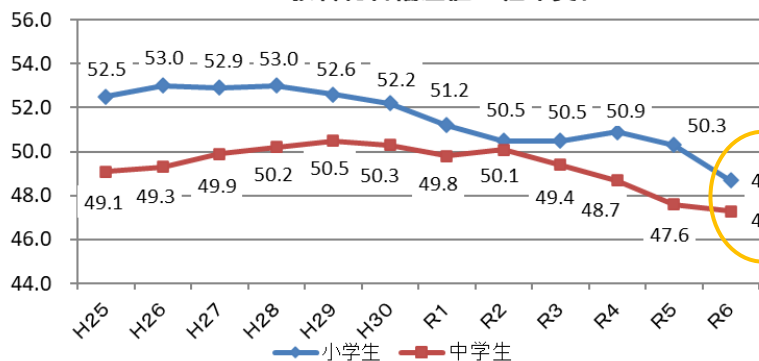
「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、以下の場合に作成・活用が求められています。**保護者面談を通じて見直しながら活用**を進めてください。

- ◆ 特別支援学校に在学する児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ◆ 特別支援学級に在籍する児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ◆ 通常の学級に在籍しながら通級による指導を受ける児童生徒・・・作成・活用の**義務**
- ◆ 通常の学級に在籍している障がいのある児童生徒（通級指導は受けていない）・・・作成・活用に**努める**

学習指導班より

NRT標準学力検査の結果から

NRT教科総合偏差値の経年変化



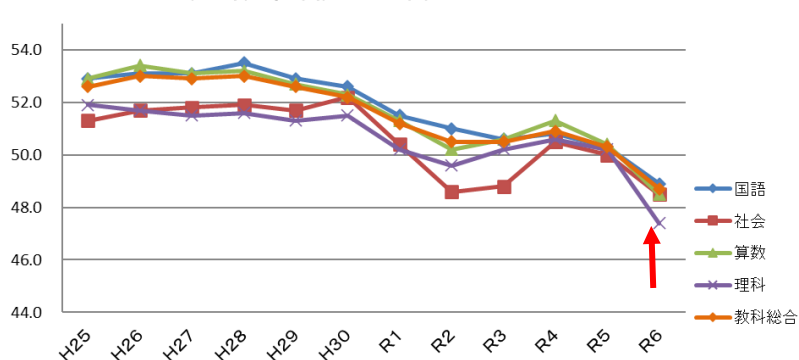
【小学生】

- ①総合偏差値 50 を下回った。
- ②前年より-1.6 ポイント。
- ③平成 25 年度以降最も低い。

【中学生】

- ①前年度より，-0.3 ポイント。
- ②平成 25 年度以降，最も低い。
- ③下がったものの，-0.3 ポイントに抑えられているとも言える。

小学生 NRT各教科の標準偏差値の推移



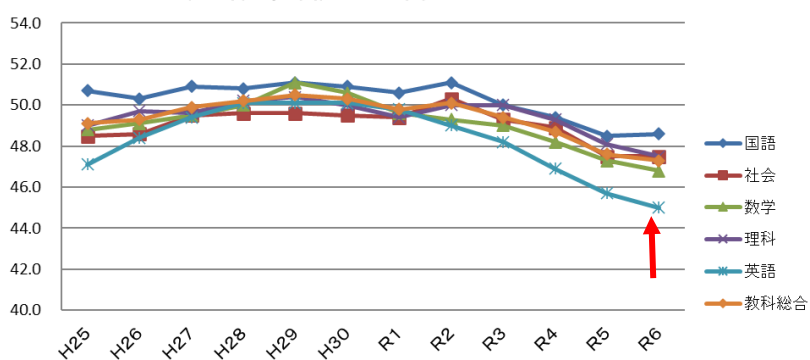
【小学生】

- ①全教科で偏差値が低下した。理科が特に前年比-2.8ポイントであった。
- ②理科の低下が目立つ。他の教科での差はほぼない。
- ③全教科ともに標準偏差値 50 を下回った。

【中学生】

- ①R 5 と同様に，各教科で偏差値 50 を下回った。
- ②しかし，国語は向上，社会は変化なしだった。
- ③今までと同様に，数学・英語の偏差値が低い，英語に課題があることは変わらない。

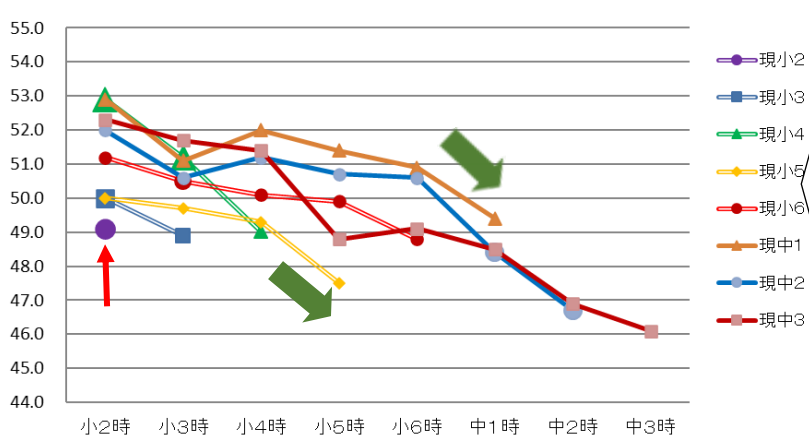
中学生 NRT各教科の標準偏差値の推移

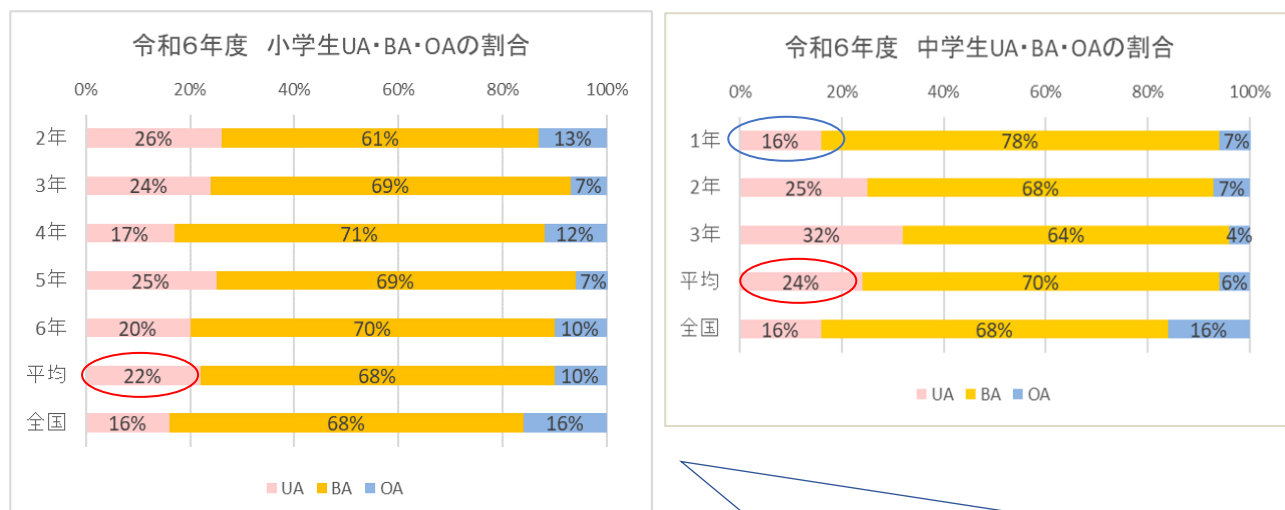


同一集団の結果では，学年が上がるにつれて，総合偏差値が下がる傾向である。

- ①小 2 の偏差値が，年々低くなっている。
 - ②小 5（4 年生の学習内容）から低下する傾向が見られる。
 - ③中学 1 年生での低下が大きい，その後も低下する傾向が強い。
- ※この傾向は今までに同じ。

同一集団の教科総合偏差値経年変化（現小2～中3のデータ）





NRTの総合偏差値の推移とともに、令和4年度よりU Aの割合を16%以下（全国平均）にするという目標も重要視しています。本年度、小学生全体では22%（前年比7ポイント増）、中学生全体では24%（前年比1ポイント減）となり、中学1年生を除く全学年で全国よりも高い割合でした。特に小学生でのU Aの出現率が昨年度よりも高いということが気になります。その要因について、各校の結果に応じて検討し対策をとっていると思います。U Aの割合からするとまだまだ数値的にも伸びる期待があります。U Aの児童生徒の学習状況に注視して授業づくりを進めてください。

NRT学力検査の結果のみが学力のすべてではありませんが、NRT学力検査の結果は、児童生徒の学力の定着の確認と自分の授業を改善するためのヒントを得る上で、重要な指標です。特にNRTは、学習指導要領に準拠した内容について、主に「知識及び技能」を評価する検査として重要であると考えています。しかし、実際には1年に1回のNRTの評価では児童生徒のその時々をの学力を把握することはできません。すでに各校で結果を丁寧に分析して、自校の課題を見出し、授業づくりの改善や取組の工夫を図っていると思いますが、毎時間の授業や単元の終わりにしっかりと形成的評価を行い、児童生徒が学習内容を理解できているかを確認することが大切です。ドリルパークやNRTアシストシートなども用いて日頃から児童生徒が何をどこまで理解しているのか確認してください。理解できていない部分は、そのままにせずしっかりと個別に支援すること、その繰り返しが知識の定着に繋がり、そして日々の活性度の高い相互作用のある学習に繋がります。今後とも学力の定着に向けての取組をお願いします。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
8月1日（木）	特別支援教育研修講座 学校運営講座 「校内支援体制の充実 ～校内委員会の機能強化～」 【千手コミセン】	講師：中越教育事務所学校支援第2課 指導主事 小林 浩子 様 対象：管理職＋特別支援教育 Co

8月1日(木)	郡市事務職員研修	
8月5日(月)	特別支援教育研修講座 特別支援教育 Co 養成講座⑥ 「指導技法・学習支援」 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 教諭 石塚 有希 様 東小学校 教諭 高橋 美貴 様 千手小学校 教諭 西潟 浩子 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
8月22日(木)	初任研ボランティア体験研修(キョロロ)	
8月22日(木)	イングリッシュキャンプ(千手コミセン) ※小学5・6年の希望者のみ	
8月23日(金)	特別支援教育研修講座 基礎講座 「グレーゾーンの子を支える 『さりげない支援』」 【千手コミセン】	講師：南中学校 教諭 廣田 稔 様 十日町市教委 学校教育課 臨床心理士 稲見 康明 様 対象：すべての教職員(各校1名以上)
9月18日(水)	特別支援教育研修講座 特別支援教育 Co 養成講座⑤ 「個別の指導計画・個別の教育支援計画」 【川西庁舎】	講師：西小学校 教諭 樋口 恵美子 様 妙高市立新井中央小学校 教諭 引場 陽子 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
9月19日(木)	居心地のよい学級づくり・学力向上推進 会議	

【表紙写真の説明】

6月20日(木)今年度最初の1日異校種体験研修が下条中学校で行われました。下条中学校の春日勇輝教諭が下条小学校で体験し、5限には6年生に体育の授業をしました。

「最大スピードでバトンのうけわたしをしよう!」を学習課題として、子どもたちにバトンの上手な受け渡しのしかたを考えさせました。バトンを渡す側が最大スピードで走ってきたとき、受け取る側は何足長でスタートしたら双方の最大スピードで受け渡しができるかを繰り返し試します。そこには必然的に対話が生まれます。受け渡しの可否や最大スピードで受け渡しができたかを手掛かりに相互に評価し、うまくいったときの達成感を味わうことができます。

主体的・対話的で深い学びの一端を見た思いでした。授業を通して、春日教諭からは「下条小中学校の子どもたちの一生懸命に取り組む姿がうれしい。中学校教諭の立場から45分で授業を作り上げる難しさを感じた。」といった言葉が聞かれました。これから各中学校区で行われる1日異校種体験研修でも小中学校互いのよさや違いを感じ取ることができるよう運営を工夫していただきたいと思います。